

日本児童文学学会 第79回中部例会

案内

新しきを温ねて故きを知る一物語の共有を巡って一

日本児童文学学会中部支部・日本イギリス児童文学学会中部支部主催

名古屋大学大学院国際言語文化研究科共催

第79回中部例会は昨年に引き続き、日本イギリス児童文学学会中部支部との共催です。

会員の皆様にはお誘い合わせの上、多数ご参加いただきますようお願い申し上げます。

日時：2014年9月28日（日）12：30～受付

会場：名古屋大学 全学教育棟北館（情報文化学部棟） 406教室
(<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/map.html#tatemono>) 地下鉄名城線「名古屋大学」駅1番出口

プログラム

12:30～13:00	受付		
13:00～13:40	研究発表 1	岡山喜美代(名古屋芸術大学大学院研究生)	「新美南吉『良寛物語 手毬と鉢の子』を読む—良寛さんの心を語り、生きた証を描いた作品—」
13:50～14:30	研究発表 2	新居明子(名古屋外国語大学)	「『ONE PIECE(ワンピース)』と『宝島』—メガヒット漫画の人気の秘密を児童文学の視点から探る—」
14:40～15:20	研究発表 3	大藪加奈(金沢大学)	「宗教的コミュニティを描く児童文学—アーミッシュ児童文学の受容—」
15:30～17:00	講演	與那覇潤(愛知県立大学)	「歴史教材としての小津安二郎—『帝国の残影』再訪—」
18:00～20:00	懇親会		「ピストロ レズドール」(http://lesoeufsdor.com/index.html)

※各支部の連絡事項は 17:00 過ぎに行いますので、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

1. 研究発表 岡山喜美代(名古屋芸術大学大学院研究生)

「新美南吉『良寛物語 手毬と鉢の子』を読む—良寛さんの心を語り、生きた証を描いた作品—」

『良寛物語 手毬と鉢の子』は、1941年に学習社から刊行された。その10年前の作品『権狐』は、ここ半世紀もの間、国語の教科書に掲載され、国民的愛読書とまで言われている。ところが『良寛物語 手毬と鉢の子』は戦後再版されることはなく、全集でしか読者は手にすることができなかった。初版から72年を経た昨年2013年に単行本として出版された。その原因の一つに、実像に添わない「伝記」だとする評価を払拭されずにきたことがあるだろう。

幼年の根拠としての史料は少なく、創作部分が問題視された。しかし、南吉が参考にした相馬御風、西郡久吾、津田青楓、大島花束らの著書には、逸話、実家の名主橋屋の歴史的叙述や、当時の出雲崎の風土や暮らしぶり、短歌俳句の作品が書かれている。南吉は、出家し禅寺を中心とした「修業」、托鉢行脚の苦行を伴う「修行」を貫く生涯の「修養」の人生の始まりを、幼年期にみる。形成されていく良寛像から、幼年期を切り離すことはできない。そして資料・史料を基に、幼年からの良寛さんを生きたつもりで、心の内側から「内の目」で生涯を描いている。『良寛物語 手毬と鉢の子』は、「伝記」として良寛さんの真髓を描いた「児童文学」である。

2. 研究発表 新居明子（名古屋外国語大学）

「『ONE PIECE (ワンピース)』と『宝島』—メガヒット漫画の人気の秘密を児童文学の視点から探る—」

「海賊」のイメージを小学生 88 名と大学生 163 名に尋ねたところ、「かっこいい」「強い」「勇敢」「財宝」「海」「冒険」「自由」等の肯定的なイメージの方が、「怖い」「危険」「悪者」などの本来の海賊の姿に近い否定的なイメージよりも圧倒的に多い結果となった。この結果は累計発行部数 3 億 1000 万部以上という絶大な人気を誇る、尾田栄一郎の少年漫画『ONE PIECE』の影響によるものが大きいと思われる。『ONE PIECE』は、主人公モンキー・D・ルフィが、「ひとつなぎの秘宝 (ONE PIECE)」を手に入れて海賊王になるために仲間と共に数々の冒険をするという物語である。社会現象ともなっている本作品の人気の秘密について、内容の独自性、マーケティングビジネスや観光芸術学、心理学等、様々な視点からの分析が試みられている。

本発表では、『ONE PIECE』が「主人公の成長」「生きて帰りし物語」「繰り返しの多用」といった児童文学の伝統的な特徴を踏襲していることに注目し、「海賊の登場する宝探しの冒険」というテーマの原点と言うべきスティープンソンの『宝島』との比較という切り口から、本作品の持つ魅力の一端を探ってみたい。

3. 研究発表 大藪加奈（金沢大学）

「宗教的コミュニティを描く児童文学—アーミッシュ児童文学の受容—」

近年、アーミッシュの人々を登場人物とする小説がアメリカ合衆国で人気を呼んでいる。アーミッシュの人々は再洗礼派のキリスト教徒であり、電気製品や自動車を使わない昔ながらの生活様式や、冷色を基本とした厳格な服装コードなどで有名である。アーミッシュ主題の作品の多くは、宗教的規範の中に育ったアーミッシュ女性を主人公としたロマンスで、もともとはキリスト教的背景を持つ中年女性がその主な読者であった。しかし、近年アーミッシュロマンスは、出版部数の増加と読者層の広がり、USA TodayやWall Street Journalでもその人気ぶりが取りざたされるほどになっている。一方、アーミッシュを主題とした児童文学は、現在のアーミッシュロマンスほどの人気や注目度はないものの、動物や農場生活が描かれる児童文学ジャンルにおいては、おなじみのテーマのひとつといえる。この発表では、アーミッシュの子供を主人公とした作品におけるアーミッシュ世界の描かれ方と、作品の受容（批評・感想）を、アーミッシュロマンスを分析したValerie Weaver-Zercherの手法を参考に分析する。

4. 講演 與那覇潤（愛知県立大学）

「歴史教材としての小津安二郎—『帝国の残影』再訪—」

戦争体験の「風化」やその継承の「困難」が言われる昨今、拙著『帝国の残影——兵士・小津安二郎の昭和史』を刊行した経緯に基づいて、日中戦争に一兵卒として参加した経験を持つ小津安二郎（1903-63）の家族映画を素材に、いかにして戦争について語り／教えるのかについて論じます。しばしば「穏和なホームドラマ」「時流に影響されず、独自の世界を作り上げた」と位置づけられる小津映画は、実は戦後も必ず何がしかの形で家族と戦争との接点に言及するなど、監督本人の戦場での体験によって色濃く規定されていたとするのが、同書の見解になります。かような着想自体、もともと「歴史」のなかに生きた人々の感覚を、映像を通じて現在の学生につかませるための教材を探して、小津映画を通覧する過程で得られたものでした。

講演では単に書籍のダイジェストをお話するだけではなく、同書を構想する背景となった昨今の若者の「映像リテラシー」への戸惑い、執筆に当たり意識した近年の日本近現代史の研究動向、オリジナルの脚本が多いとされながら実際には存在する小津と同時代の小説家たちとの相互関係、さらには実際に執筆したテキストを使って授業を行った経験から得られたものなどを話題としつつ、広義の「フィクション」を素材に世代を超えたコミュニケーションを試みることの今日的な意義について、実体験を踏まえて語り合う機会にしたいと考えています。

*参考文献

與那覇潤『帝国の残影——兵士・小津安二郎の昭和史』NTT出版、2011年

片山杜秀・與那覇潤「小津安二郎が『作為』した日本」『史論の復権』新潮新書、2013年

懇親会について

例会終了後、與那覇先生を囲んで懇親会を予定しています。是非、ご出席下さい。

ご出席の方は、例会担当の今井（TEL0574-56-0290、VYG07764@nifty.com）に、9月10日までにご連絡下さいますようお願いいたします。会費は4000円の予定です。（ご出席の方は、M料理お肉・お魚を選択下さい）

日本児童文学学会中部支部事務局からの連絡とお願い

1、支部会費納入について

新年度（2014年度）の支部会費2,000円の納入をお願いいたします。

9月例会に出席される方は例会の受付で納入ください。

ご欠席の方はお手数をおかけしますが、お早めに下記郵便局振込口座に、備え付けの用紙を使って振り込みをお願いいたします。（休日でもATMが稼働しているときは振り込みができます。）

口座番号：00810-5-182222

口座名称：日本児童文学学会中部支部

（他行からの振込みの場合は、089店 当座 0182222です。）

2、『児童文学論叢』編集委員会より 原稿募集のお知らせ

『児童文学論叢』第19号を来年度の秋の例会に間に合うように、2015年9月に発行する予定です。

前号の反省を生かし、編集期間を長めにとります。

そのため、原稿の締め切り提出を2015年3月末とすることになりました。

原稿締め切りまであと半年足らずですが、執筆ご希望の方は、**12月25日までに**事務局（酒井晶代 /Eメール masaka@asu.aasa.ac.jp）あるいは編集委員（服部裕子 /Eメール yuko@ijmio-mail.jp）へお申し出ください。どうか、よろしくをお願いいたします。

日本児童文学学会中部支部

〒480-1197 愛知県長久手市片平二丁目9

愛知淑徳大学メディアプロデュース学部

酒井晶代 研究室

E-mail:masaka@asu.aasa.ac.jp